

初めてでも安心！！ 分かっているようで、意外と見落としがちな オフィスサイネージベンダー選定における 6つのポイント

2026年3月

NECフィールディング株式会社

はじめに ～ 本書を読むとわかること ～

はじめに ～ 本オフィスにデジタルサイネージを導入する方針が決定した次にやるべきこととして、導入を任せるベンダーを選定する作業に移ります。ベンダー選定といっても、初めて経験する方や、デジタルサイネージに初めて取りくむためどのような基準で選定すればいいか、分からない方が多いかと思います。

本書では、中規模以上のサイネージ導入を前提に、ベンダー選定する際にチェックしておくべき6つのポイントを紹介させていただきます。貴社の導入方針にマッチしたベンダー選定にお役立てください。

書を読むとわかること ～

1

オフィスサイネージ導入で考慮しておくべきポイント

2

オフィスサイネージ導入に必要なケイパビリティ

3

ベンダー比較時に貴社で重視するポイント整理／比較方法

① オフィスサイネージ導入で考慮しておくべきこと

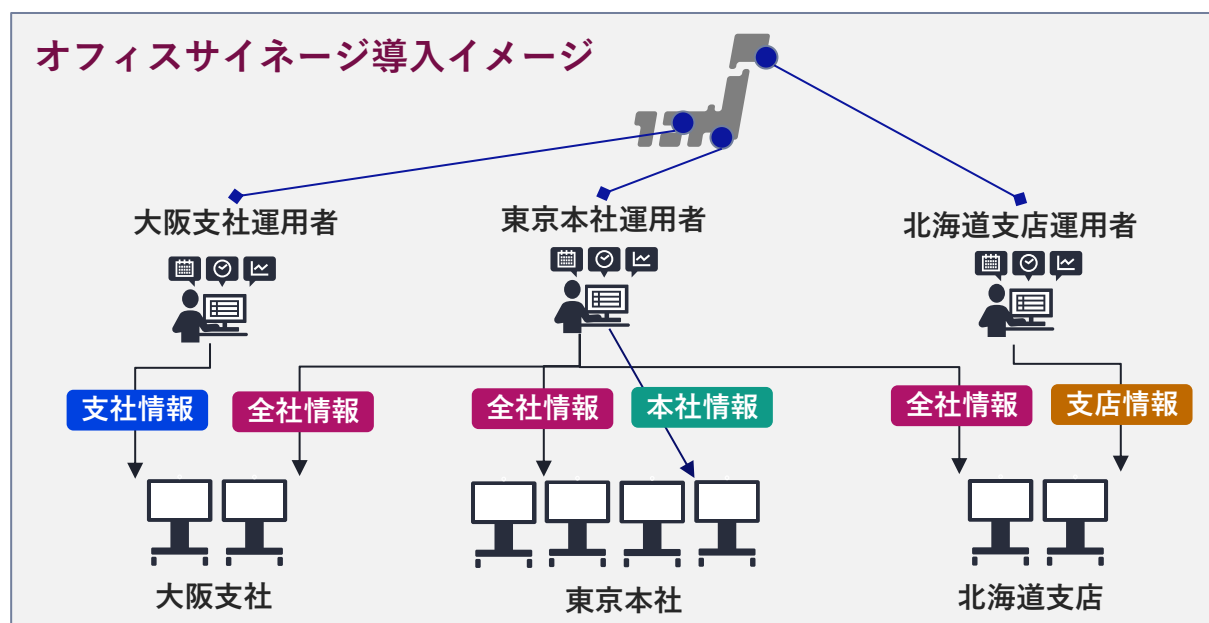
オフィスに導入するデジタルサイネージは、他用途のサイネージと異なり、

① 情報を提供する側の組織／人物が複数部門・複数人登場する。加えて、異なる拠点の場合がある。

② 1つのディスプレイで、様々な目的をもった情報を提供しなければならない

など、複雑かつ特異な運用が求められるサイネージであると考えます。

サイネージ導入に向けてベンダー選定をする際、①ディスプレイ、②STB、③配信システム などハードウェア、ソフトウェアの機能／価格を重視する傾向にあると思います。しかしオフィスサイネージの場合は貴社の実現したい内容次第では、上記の通り特異性が増してくるため、これらを考慮したベンダー選定に努める必要があると考えます。



② オフィスサイネージに必要なケイパビリティー(概略)

ベンダー選定の際には、配信システムの機能や価格などが主要な比較項目となりますが、貴社のオフィスサイネージの導入規模や運用形態によっては、上記だけでは導入／運用で上手くいかないケースが出てくる恐れがあります。成功に導くためには、ノウハウ／運用設計などのケイパビリティーが必要です。以下6つのポイントをまとめましたので、ベンダー比較の考慮に入れてみてください。



③ オフィスサイネージに必要なケイパビリティ(説明)

① オフィスサイネージ ノウハウ

- ・ 中規模以上のサイネージを導入する際、複数部門／複数拠点の要望を取りまとめ、作り上げていく必要があります。
- ・ 取りまとめる内容には、①コンテンツ ②運用 ③設置場所 ④保守など多岐に渡り設計／検討が必要です。

多岐に渡り調整が必要となるオフィスサイネージをスムーズに導入していくためには、導入／運用などのノウハウの有無が重要です。導入／運用の実績などをしっかり確認しておきましょう。

② 運用設計

- ・ 上記同様、複数部門／複数拠点から表示コンテンツを募り、スケジュール登録、配信を行う場合、誰が、どのように運用するかを事前に設計していくことが重要です。
- ・ 適切な設計を怠ると運用負荷が高まり、コンテンツ更新がスムーズに行えないなどの問題が生じる可能性があります。

貴社の要件に依存しますが、導入や設計の支援の有無を確認しておきましょう。
貴社要件を事前に提示し、ベンダーからの支援の有無や実現可能性を見極めてみてください。

③ コンテンツ

- ・ 各部門／拠点が個別で作成すると統一感が保てず、視聴者には見えにくいコンテンツとなってしまいます。
- ・ 加えて、個別で作成すると、作成負荷が増加し、コンテンツの継続的な制作が行き詰まる可能性もあります。
- ・ 売上情報／電力使用量など、貴社のシステムと連携したコンテンツ表示のニーズが高まってきています。

基本的には貴社で制作されると思いますが、コンテンツの相談／対応が可能かは確認してみてください。
その他将来も見据え、システム連携コンテンツなど提供可否も確認してみてください。

③ オフィスサイネージに必要なケイパビリティー(説明)

④ 配信システム

- ・運用を一括管理する。色々な部門で対応する。など様々な運用形態に対応できるシステムを検討する必要があります。
- ・各部門／拠点の担当者による操作が想定されるため、どなたでも使いやすい①UI ②使い勝手 ③運用が重要です。
- ・通常運用以外に、緊急時の緊急コンテンツ表示、年頭訓示などのLive配信 など、貴社特有の要件への対応が必要です。

オフィスサイネージの場合、会社様ごとで様々な要件／運用をされております。
貴社の運用を事前に整理した上で、運用に適した配信システムの選択するようにしてください。

⑤ セキュリティ

- ・サイネージシステム導入に際し、必ずセキュリティ面の検討・確認が必要です。
- ・クラウド型サービスを使用する場合、自社のセキュリティの考え方やインシデント発生時の対応方針、ベンダー側のクラウド基盤のセキュリティ対策状況などを確認することが重要です。

運用部門だけの判断ではなく、会社としてのポリシーに準拠させるケースが大半となります。
サービス会社が公的認証（ISO、ISMSなど）を取得しているかなど、確認しておきましょう。

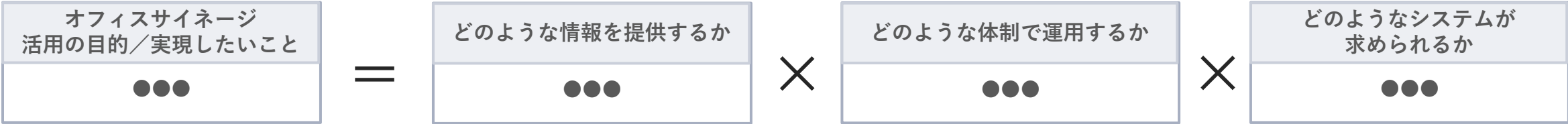
⑥ サポート

- ・導入後5年程度は同様の仕組みで運用していくため、導入初期と導入以降の中期的視点でのサポートの整理が必要です。
- ・導入初期は運用に不慣れなため、担当者の設定ミスを始め貴社側起因により不具合が生じる傾向にあります。
- ・その他導入以降の、サイネージ機能のアップデートなどに対応できる仕組みが望ましいです。

問い合わせ窓口が設定されていることや、各サービスのSLAは確認しておきましょう。
その他、リモート保守の有無は問題解決の負担軽減でポイントになるので確認しておきましょう。

④ 考慮ポイントにおける貴社の重要度整理

ベンダー選定にとりかかる上で、改めて自社が実現したいこと、実現するために、
①必要なコンテンツ、②必要な運用とその体制、③その時に必要なシステム(機能)は、整理しておきましょう。
別紙：成功するデジタルサイネージ導入検討に必要な7つのポイント を参照ください。



自社の状況を整理した後に、考慮すべきポイントにおける自社の重要度／優先度を整理してみてください。
貴社が実現したい内容や、自社の保有アセット活用などにより重要度は異なってくると思いますので、それを踏まえ整理ください。

No	考慮しておくべきポイント	選定の重要度 (高：5 ← → 1：低)	重要度の理由
1	オフィスサイネージノウハウ		
2	運用設計		
3	コンテンツ		
4	配信システム		
5	セキュリティ		
6	サポート		

⑤ ベンダー比較サンプル

ベンダー選定では、比較表をもとに①貴社要件への提案充足度、②ベンダーのケイパビリティ、③価格などを総合的に比較することが大切です。また比較する際には充足度を点数化することで、比較基準を明確にすることができます。
なお基準となる点数は前頁の重要度なども考慮し、数字の重みづけは適宜調整してみてください。

		A社	B社	C社	D社
システム関連	UI面				
	機能面				
	●●(貴社要件に従い記載)				
システム関連以外	サポート				
	●●(貴社要件に従い記載)				
ケイパビリティ	サイネージノウハウ				
	運用設計				
	コンテンツ				
	配信システム				
	セキュリティ				
	サポート				
点数合計					
価格	初期費用				
	ランニング費用(5年合計)				
総評					

点数	評価
5	とても優れている
4	優れている
3	普通
2	やや不十分
1	不十分

⑥ NECのオフィスサイネージの取り組み

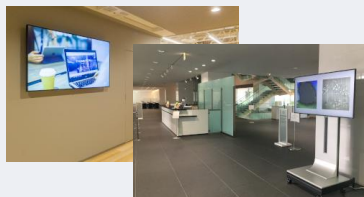
NECでは、自社内のオフィスサイネージを導入／運用しております。

また、自社の導入／運用のノウハウを活かして、お客様のオフィスサイネージを支援させて頂いております。

数ある事例の中から一例では御座いますが、自社内の運用やお客様の導入の事例を簡単に紹介させて頂きます。

NECの事例

設置例



コンテンツ・活用例

- トイレや食堂の利用状況の見える化



導入前の背景や課題

- 社員間のコミュニケーションの活性化と情報浸透によって、より生産性を高められる職場環境を実現していきたい
- 社員のエンゲージメントを高めたい

導入後の効果

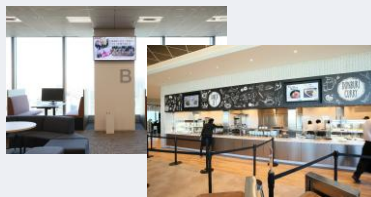
- 発信する情報の認知が拡大し、社員間コミュニケーションのきっかけに
- 会社のメッセージを効果的に伝え、社員一人ひとりの心を動かし、行動変容を促進

ベンダー選定ポイント

- 実績が裏付ける高いコンサルテーション力
- クラウド型ネットワーク配信サービスによる導入・運用の容易さ

出光興産様の事例

設置例



コンテンツ・活用例

- カフェテリアのメニュー
- 年頭訓示の中継放映
- 館内放送の代替手段として利用

導入前の背景や課題

- Webサイトやメールだけでは必要な情報を認識してもらえない
- オフィスを「価値創造に挑戦できる」環境へ整備したい

導入後の効果

- デジタルサイネージで社員が主体的に情報を取りに行くきっかけ作りを実現
- 従業員相互のコミュニケーションが活性化

ベンダー選定ポイント

- コンテンツ作成や役割分担などのオフィスにおける運用のノウハウ
- 各部門から相互にコンテンツ配信ができることから、複数部門でコンテンツを相互に登録し配信する運用体制を実現できるシステム

製造業A社様の事例

設置例



コンテンツ・活用例

- BEMS連携によりビル内使用電力量を表示
- 株価情報、ニュース
- 社内ポータル連携

導入前の背景や課題

- 会社の経営状況や取り組み等の社内情報を迅速に周知したい
- 外部情報連携で社員の意識を高めたい

導入後の効果

- リアルタイム、スピーディーに情報の共有を実現
- ビル全体の電力需要の抑制や節電に繋ぐことが可能に

ベンダー選定ポイント

- システム連携によるコンテンツ表示が可能
- 導入後の保守サポートが充実

NEC

\Orchestrating a brighter world

NECフィールディング